

令和2年度事業報告(案)

1. 主要事業実績

(1) 会員（正会員、特別会員）の現状

会員数については終身会員の自然減耗と新規年会員の加入にバランスがとれて一時的に歯止めがかかったが、自衛官の定年延長に加え、令和2年度についてはコロナの影響と推測される特別会員の退会が増加し、会勢の拡大には至らなかった。会員の現状はパワーポイント資料のとおりである。

(2) 令和2年度主要事業実績

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大部分の計画は縮小実施若しくは中止を余儀なくされた。細部状況については県本部業務監査に提出（添付省略）

2. 公益目的事業の充実及び活動の活性化

(1) 県本部における主要事項の処理・実施状況

ア 防災

自治体主催の防災訓練は、神奈川ビッグレスキューを含め新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

防災協定の締結については、湘南支部が藤沢市と協定を締結した。また、湘南支部は、平塚市との協定を準備中である。

陸上自衛隊第31普通科連隊との防災協定（平成24年締結）は、陸上自衛隊の部隊改編のため見直し中である。

イ 殉職自衛隊員の追悼及び戦没者等の慰霊顕彰

例年、陸上自衛隊殉職生徒慰霊（高等工科学校）、県戦没者追悼式（戦没者慰霊堂）、海上自衛隊殉職隊員追悼式（横須賀地方総監部・厚木航空基地）及び殉国60烈士慰霊祭（光明寺）に参加している。令和2年度は、関係者のみで縮小実施されたため、神奈川県隊友会からは参加しなかった。

神奈川県隊友会が共催する「神奈川県殉職隊員追悼式」は11月19日（木）武山駐屯地において関係者のみで縮小して実施した。本共催に関する協定書の一部改訂が実施された。

ウ 現職自衛官及び予備自衛官等に対する激励・支援

海外派遣部隊隊員への激励は隊員の希望する物品を贈呈、予備自衛官等への激励は招集訓練実施時に訓練実施部隊所在の支部長による激励及

び隊友会の説明並びに加入促進を実施した。

・海外派遣部隊等への激励

海自第5護衛隊おおなみ (2. 4. 2)

海自第1護衛隊むらさめ (2. 8. 25)

海自横須賀洋上懇親会 (2. 9. 23)

・予備自衛官等への激励

予備自衛官1日訓練 (2. 7. 19) 神奈川県協力本部 16名

予備自衛官招集訓練 (2. 9. 22) 陸自武山駐屯地 77名

予備自衛官招集訓練 (2. 10. 13) 陸自久里浜駐屯地 45名

予備自衛官1日訓練 (2. 10. 25) 神奈川県協力本部 15名

予備自衛官招集訓練 (2. 12. 1) 陸自久里浜駐屯地 45名

(2) 県隊友会独自の魅力化・活性化

ア 県隊友会の在り方検討

在り方検討の初年度であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため委員の参集を得た検討会を十分に行えなかった。顕在化している問題点、例えば、隊友紙原価販売(値上げ)による財政圧迫の対応策等は早急に対応策を検討する必要がある。

令和3年度は検討の2年度目である。検討項目を明確化し、要すれば、項目ごとのプロジェクトを組織化することを考慮する。

イ 会員のための福祉事業等の推進

有料の就職支援が、隊友会本部の施策により制度化されたものの認知度は深くない。再々就職の援護を希望する会員は少なからず存在すると思われるが、存在の周知には至っていない。存在の情報について拡散する必要がある。

会員が「入会してよかった。」と思える組織の構築を前アの検討項目とする必要がある。

ウ 県隊友会ホームページ(県HP)による各種情報の提供

県HPは県隊友会の紹介、各種情報のお知らせ、県隊友会の月間予定、総会及び理事役会の審議事項等及び県本部や各支部の活動状況等を掲示している。情報の速やかな伝達及び掲示内容の陳腐化を防止するため、タイムリーな更新に努めている。会員各位のHPへのアクセスを期待する。また、県隊友会HPはアプリケーションソフトとして、ホームページビルダー10を使用して構築し、後刻、ホームページビルダー15にバージョンアップしている。本アプリがシステムソフトの最新版に追従できないためと思われるHPの公開中断が余儀なくされる不具合が生起している。ホームページのリニューアル化が必要と思料する。

エ 会員名簿の随時更新及び厳格な管理

会員名簿については、新規会員・退会会員の情報を入手の都度、名簿の更新・各支部との情報交換に努めるとともに、毎月毎に一か月間の移動者を集計して各支部に示し、更に、年度末には県本部と各支部との間で、USBを使用して会員名簿（データベース）の整合を行っている。

オ 神奈川自衛隊音楽まつり 2020 の支援

神奈川県自衛隊音楽まつり 2020 は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、新入隊者及びそのご家族並びに関係者一同の健康と安全を考慮して中止となった。

カ 隊友紙への投稿（個人での投稿を除く。）

- ・ 第792号 防災図上訓練実施、防災連絡会議参加（県本部）
- ・ 第793号 改札口に「たいゆう傘」を設置（武山三浦支部）
- ・ 第797号 遠洋航海部隊歓迎（横須賀支部）
- ・ 第800号 新市長を表敬訪問（県北支部）
- ・ 第801号 殉職隊員追悼式（県本部）

キ 支部等機関紙の発行

支部ニュース・支部だより・お知らせ・を発行することにより支部等と会員のコミュニケーションツールとして愛読されている。隊友紙に代わる機関紙としての機能を有する情報紙を模索したい。発行支部等は次のとおり。

- ・ 横浜南支部：隊友よこはま南（年2回）
- ・ 横浜北支部：隊友・特別会員連絡版（毎月：中断中）
- ・ 川崎支部：未発行
- ・ 県北支部：県北支部便り（隔月基準）
- ・ 県央支部：県央ニュース（年4回）
- ・ 西湘支部：未発行（県事務局に寄稿し、支部会員に配付）
- ・ 湘南支部：支部ニュース（毎月発行）
- ・ 横須賀支部：支部便り（年4回）、お知らせ（毎月）
- ・ 武山三浦支部：未発行
- ・ 県事務局：かわら版（年4回）

支部機関紙は、県HP支部ページで公開

3. 会勢拡大と財政の健全化

ア 会勢拡大

隊友会本部の施策で入会促進会員を指定し、各所在部隊長等へ啓蒙活動を行うとともに、退職予定隊員に対する入会勧誘及び新入隊者への隊友会の

意義について理解を得て入会の促進を図っているが、コロナ禍により各支部長や入会促進会員等の駐屯地、基地への立ち入りが規制され、指揮官等への隊友会活動の説明や退職を控えた隊員への入会勧誘ができなかった。また、今後は入会促進会員の指定には、自衛官現職時の階級・配置にこだわることなく適材適所の配員を要望している。

終身会員制度の廃止による終身会員の自然減耗と年会員の加入のバランスがとれて一時的に会員の減少に歯止めがかかったが、自衛官の定年延長に伴い、年会員の加入数が減少して会員数は右肩下がりとなったことは、会員の現状で報告したとおりである。

イ 財政の健全化

県財政は会費収入によるところが大きい。当面、会勢拡大が多くは望めないうえに、年会員の退会による減収が県財政の健全化を阻害している。

会費収入のほか、終身会員への寄付をお願いして県財政に補填しているが、終身会員も減少しており寄付総額はこの数年右肩下がり傾向が続いている。寄付のお願いに機関紙「秀親ホットライン」を同封（最新版17号。2021.5.15発行、HP県本部のページで公開）している。隊友紙の原価販売（値上げ）が本部の意図であり早急な対応策が必要である。

県事務局としては、隊友会本部施策の新規事業「引越見積支援サービス」などの収益事業を積極的に推進する等、財政健全化に努力を傾注するとともに諸々の状況を勘案して体制を整えたい。

以上